

「機関リポジトリの次の一手を考える」シリーズ勉強会第5回 ちまたわ vol. 3

論文撤回問題等： チャールストン会議から

2025年1月24日(金)15:00~15:30

九州大学附属図書館eリソース課eリソース管理係

金子 芙弥

チャールストン会議(Charleston Conference)とは？

- 毎年、アメリカ・サウスカロライナ州チャールストンで開催
- 北米及び全世界から、大学図書館、出版社、学協会、ベンダー等の関係者が集まる学術出版に関する会議
- 1980年にチャールストン大学の図書館職員カティーナさん(Katina Strauch)がはじめ、当初は20名程の参加だった
- 2023年にAnnual Reviewsが買収
- 現在は、全世界から約2,000人以上の参加
- 2024/11/12-15対面、12/9-12オンライン

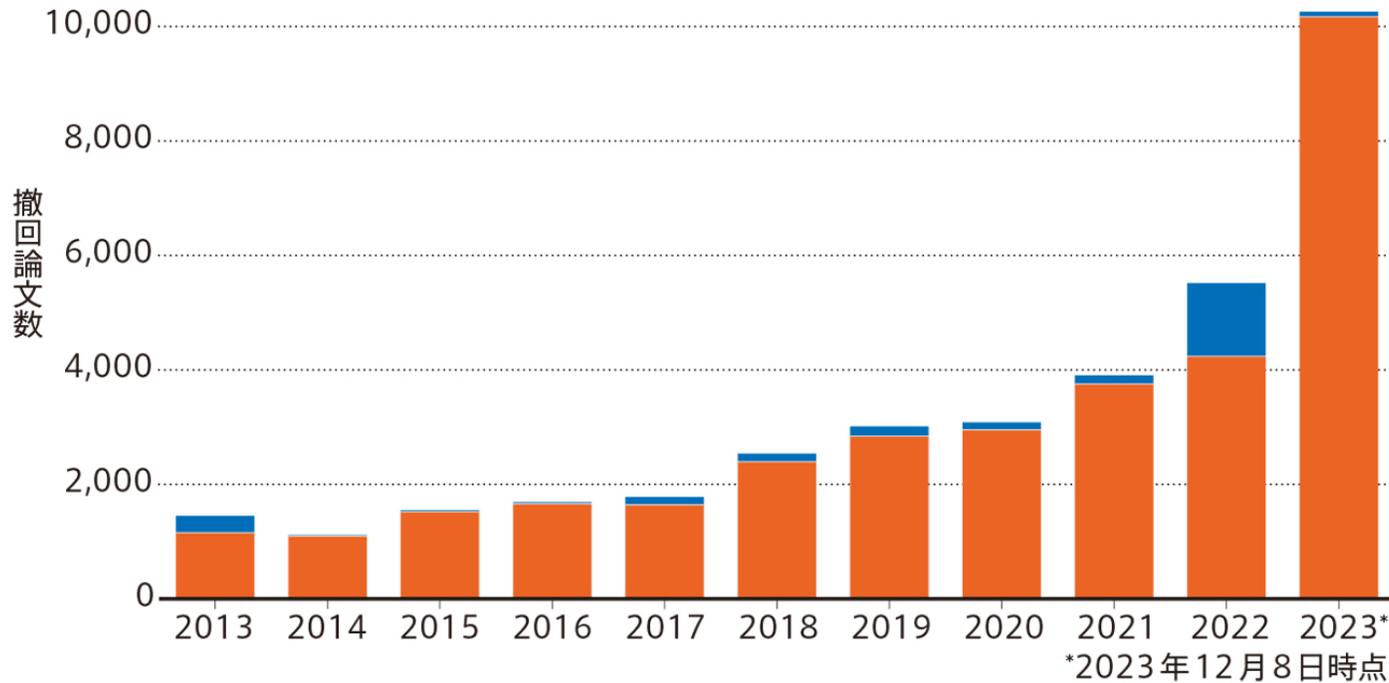
同時に複数のセッションが催され、オープンアクセス(論文・ブック)、
転換契約、論文撤回、生成AI、Library School…等、話題は多岐にわたる

論文撤回の状況

撤回論文数が激増した2023年

ヒンダウィ社が8000本以上の論文を撤回したことなどにより、2023年の撤回公告 (retraction notice) は1万件を超えた。

■ ジャーナル論文 ■ 学会論文



2002年
論文5,000本1本



2023年
500本に1本

2023年の撤回論文数が1万本突破で新記録. Nature ダイジェスト, 2024, 21(3). <https://doi.org/10.1038/ndigest.2024.240317>.
原文: Richard Van Noorden. More than 10,000 research papers were retracted in 2023 — a new record. Nature. 2023, 624, p.479-481. <https://doi.org/10.1038/d41586-023-03974-8>.

不適切な画像利用

- テキスト、表、グラフではみつけるのは難しい
- 画像の重複、回転

⇒生物医学系の論文の画像スクリーニング

➤40の科学雑誌に掲載された20,621論文(1995年から2014年)

➤782論文(約4%)が不適切に複製された画像

- ① 単純な重複
- ② 再配置を伴う複製
- ③ 変更を伴う複製

⇒5年後:修正・撤回されたのは三分の一

Elisabeth M. Bik et al. The Prevalence of Inappropriate Image Duplication in Biomedical Research Publications. mBio. 2016. 7(3). <https://doi.org/10.1128/mbio.00809-16>.

paper mill(1)

- paper mill: 論文全体の2~5%くらいある
 - 非常に質の低い
 - 剽窃
 - AIによるテキスト → 今後AIが偽の画像や図の生成すると見抜けない

パターン認識等を利用すればAIが重複を見つけることが可能
AIはこの問題を悪化させるツールにも、解決策にもなりうる

paper mill(2)

- Hindawiのジャーナルにpaper mill論文が多く投稿
→ 2024年:Hindawiというブランド名を使用せずWileyとする、
旧Hindawiジャーナルの削減

Retraction Watch. “Wiley to stop using “Hindawi” name amid \$18 million revenue decline”. 2023-12-6.
<https://retractionwatch.com/2023/12/06/wiley-to-stop-using-hindawi-name-amid-18-million-revenue-decline/>.

Wiley to stop using “Hindawi” name amid \$18 million revenue decline

Wiley will cease using the beleaguered Hindawi brand name, the publisher announced on an earnings call Wednesday morning.

Wiley plans to integrate Hindawi’s approximately 200 journals into the rest of its portfolio by the middle of next year.



論文撤回に関連して

- 疑わしい研究慣行
 - 学生への指導不足・監督不行き届き
 - 研究成果を完全に報告しない
 - 実際には読んでいない論文の引用
- 研究者からの良い雑誌？良い記事？の問い
 - 図書館員として断定はしない、研究者自身が判断できるように情報を与える

OSTP ネルソン・メモの内容

- 2022年8月25日に公表

(パブリックアクセスのみ)

- 遅くとも2025年12月31日までに研究成果のパブリックアクセス方針を更新し、連邦政府からの助成を受けた研究による出版物および根拠データについて、エンバーゴなしでパブリックアクセスを可能にすること
 - 連邦政府機関は2024年12月31日までに計画実施方針を策定・公表
 - 連邦政府機関は2025年12月31日までに更新されたポリシーの実施

OSTP. MEMORANDUM FOR THE HEADS OF EXECUTIVE DEPARTMENTS AND AGENCIES. 2022, 8p. <https://www.govinfo.gov/app/details/GOVPUB-PREX23-PURL-gpo223653>.

URL注意
www.whitehouse から
削除されている

参考)

脇谷史織. 米国・OSTPによる研究成果公開に関する政策方針について. カレントアウェアネス-E, 2022, 449, E2564.
<https://current.ndl.go.jp/e2564>.

OSTPメモについて@チャールストン会議

- トランプは、OSTPメモを含めて、バイデン政権の大統領令をキャンセルするかもしれない
 - 連邦政府機関は、2024年末までに計画実施方針を策定しなければならない
- トランプもすぐにとって変わるような方針を出さないだろう
- 2013年のホルドレン・メモ(1年間のエンバーゴつき)が有効になるかもしれない

⇒しかし、10月1日に連邦規則集のFPL(“Federal Purpose License” 連邦目的ライセンス)が改正されていた

- SPARCとAuthors Allianceの連携プロジェクトの1成果として、「Open Access and U.S. Federal Information Policy」という白書を発行
 - OSTPメモに基づく学術出版物の一般公開に関する法的問題を取り上げた4つのホワイトペーパーシリーズ(予定)の最初

Eric Harbeson. “Open Access and U.S. Federal Information Policy”. 2024, 21p.
<http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.5020096>.

- Department of Energy (DOE:エネルギー省)、National Institutes of Health (NIH:国立衛生研究所)はOA方針を更新

Department of Energy. “DOE O 241.1C, Scientific and Technical Information Management”.
<https://www.directives.doe.gov/directives-documents/200-series/0241.1-border-c>.

National Institutes of Health. “NIH issues new policy to speed access to agency-funded research results”. <https://www.nih.gov/about-nih/who-we-are/nih-director/statements/nih-issues-new-policy-speed-access-agency-funded-research-results>.

- 2025年1月20日 トランプ大統領就任
 - バイデン政権下の大統領令を撤回